

# 私学の魂

栄東中学・高等学校

アクティブ・ラーニングを新たな柱とした独自の教育スタイルで、さらなる進化を図り、1回の入試で5,000名、のべ1万名の受験生を集める、首都圏でも最多志望者の共学進学校。

JR 宇都宮線「東大宮駅」から徒歩8分。近接するターミナル駅「大宮」からもわずか2駅という交通アクセス。さらに直通なら池袋から28分、新宿から34分という、東京・神奈川からも通学が可能な立地にある栄東中学・高等学校。

埼玉栄に続く佐藤栄学園グループの姉妹校として1978（昭和53）年に高等学校を開校。1992（平成4）年に中学校を開校し、以来、急速に進学校としての評価を高め、現在では埼玉の共学校では最難関レベルにまで入試の難度を高めてきました。さらに2004年に「東大クラス選抜」を実施し始めてからは県の内外からも人気が集まっています。

現在は、アクティブ・ラーニング（AL）を前面に打ち出し、各教科で能動的、活動的な学習スタイルを取り入れ、21世紀を担う子どもたちに求められる真の力を育てるため、新たな教育ステージへのステップアップをめざしています。そうした同校の教育の特徴とめざすところについて、今回は副校長の辻潤先生と入試広報部次長の奥田克己先生、そして理科教員の齋藤皓之先生にお話を伺いました。



副校長 辻潤先生

DATA

1

## 栄東中学・高等学校

- 沿革 1971年 学校法人 佐藤栄学園認可。  
1978年 埼玉栄東高等学校設置認可。理事長佐藤栄太郎氏初代校長に就任。  
1992年 校名を栄東高等学校に改称栄東中学校設置認可。  
1994年 高校男女共学開始。  
2008年 第2代校長田中淳子氏就任
- 校長 田中淳子
- 所在地 さいたま市見沼区砂町2-77  
TEL：048-666-9200（アドミッションセンター）  
<http://www.sakaehigashi.ed.jp/>
- 交通 JR 宇都宮線「東大宮」駅より徒歩8分

## 豊かな発想力、想像力を持った、「知識を使える」人材を育てるためのアクティブ・ラーニング

栄東中高が、独自のアクティブ・ラーニングに取り組み始めたのが6～7年前。いまではこの授業・学習スタイルが、同校の中高一貫教育の柱になっています。

アクティブ・ラーニングとは、ひと言でいえば「能動的・活動的な学習」のこと。教師が一方向的に生徒に知識伝達をする講義形式ではなく、課題研究やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど、生徒の能動的な学習を取り込んだ授業を総称するものです。自ら課題を見つけ、それを解決する能動的な学びに向かうことで、自立的な学習態度を身につけることが期待できます。学習者中心の視点から、授業や校外で取り組みを展開することが特徴となっています。

## 教科（授業）、校外活動、キャリア教育、部活動の四つを通して行う栄東のアクティブ・ラーニング

栄東中学・高等学校のアクティブ・ラーニング（以下AL）では、四つの柱を設け、それぞれ特色ある授業や学習スタイルに取り組んでいます。

第一は、教科のなかで授業を通して行う「校内AL」。第二は、学校の外で取り組む「校外AL」。第三は、キャリア教育に類する「キャリアAL」。第四は、部活動を中心に行うものです。四つの柱は相互に連動し、AL全体を通して生徒の生きる力が育てられています。

「校内AL」では、各教科の担当教員がそれぞれ創意工夫をした授業を実践しています。たとえば中1の「英語AL」では、ネイティブの先生二人に校長の



理科の「校内AL」。鶏の手羽先を使って、脊椎動物の前肢の骨格を比較して、進化論を探究します！



「海外AL in アメリカ」では高校2年生がニューヨークのミルトンハイスクールでディベート&ディスカッションを行います。

田中淳子先生も加わり、その月のテーマを生徒同士でディスカッションすることで、リスニング力と表現力を培います。そこに授業が空いていた高1の生徒数名も加わり、中1の生徒たちのディスカッション相手を務めます。

中3の「数学AL」では、教頭の井上和明先生の授業のなかで、立体図形の問題の解き方を生徒が教壇からプレゼンテーション。聞いているクラスの仲間がその説明に頷いたり質問を投げかけたり…。

中3の「理科AL」では、齋藤皓之先生による実験授業のなかで、気体の性質について、仮説～実験～ディスカッション～プレゼンという一連の体験を通して、自らその日のテーマに関する問いを立て、仲間と意見を交換し合う過程で理解を深めていきます。

第二の「校外AL」は、中1の河口湖体験、中2の京都・奈良研修旅行、中3のオーストラリア研修旅行が大きな柱になります。たとえば今年で3年目を迎えた「古都AL in 京都&奈良」では、グループ研究による事前学習を踏まえて現地を訪れ、京都大学の留学生に英語を交えて日本の伝統文化を説明します。この経験が中3オーストラリア研修旅行で、現地の人々に日本文化をプレゼンする際に生きてきます。「書道のパフォーマンスなども披露し、今まで身につけてきた英語力を駆使して、現地の人々とコミュニケーションすることで、生徒自身が感動し、帰国後



文化祭で展示される「20年後の履歴書」。生徒たちが書いたリアルな内容に、来場者の足も思わず…。



中2に行われる「古都A.L in 京都・奈良」では、京都大学に來ている留学生たちに、英語でガイドにもチャレンジします。

の学習のモチベーションも高まっていく」と語るのは副校長の辻先生。

第三のキャリア教育に類する「キャリアA.L」では、職業観を養うために卒業生や保護者に仕事の内容を講演してもらい「ジョブ・コンテンツ」を中心に、中2では「20年後の履歴書」を作成します。「より具体的な自分自身の未来像と、そこに至るまでの道筋を思い描くことで、そのための必要な進路や大学の学部・学科の選択まで幅広く意識を振り向けることを経験します」とは副校長の辻先生。特にこの中2段階で（一般的に男子より）精神年齢の高い女子の「20年後の履歴書」は、20年後の仕事や家庭の暮らしぶりまでリアルに想像した見事なものです。

もちろん男子もこの時点で、かなり具体的な未来像を描き、将来の目標に向けた意識づけをしています。

第四の部活動を中心に行うA.Lでは、ふだんのクラスや学年の仲間同士の「横のつながり」とは違った、先輩・後輩との「縦のつながり」から社会で必要な協調・協働力、練習や学習との両立などの時間管理、マネジメントの力を磨きます。栄東中高では、こうした部活動への参加を奨励しており、中学ではほぼ100%の生徒が何らかの部活動に参加しています。

部活動をアクティブ・ラーニングに位置づけているケースは私学のなかでも珍しいかもしれませんが、同校ではこれを、「自分自身が好きで選び、そこで『何をやりたいのか』という目標があって努力する部活動で学べることは非常に大きく、先輩・後輩との関係のな



左＝アーチェリー部は全国大会に優勝するなど国体、インターハイの常連校。右＝水泳部も温水プールで全国大会2位の強豪校。

かで、練習や活動のスタイルなど、各部の伝統を継承していく力を育てることの意義は大きい」と考え、ひとつの柱としています。

卓球部の顧問でもある理科の齋藤皓之先生は、「たとえば卓球部の場合には、顧問の教員から練習メニューを与えることはせず、部員の生徒が自分たちで課題を見つけ、解決していくための練習や活動メニューを考えていくようにしています。また、部長が



毎朝忙しい保護者には朗報！中学は月～金まで完全給食制。おいしいスクールランチに生徒も大満足です！

どの場面でも指示を出すような旧来のリーダー像ではなく、さまざまな場面で、その役割の部員が

リーダーシップを取ることができるような、そうした協同体のあり方も学んでほしいと願っています」と話してくれました。

## アクティブ・ラーニングの成否に関わる、教員の「見守り」「褒める」姿勢が、生徒の自主性、能動性を引き出す！

しかし、こうしたアクティブ・ラーニングを様々な場面で成立させ、効果をあげるには、教員のファシリテータとしての力やプレゼン技法の指導力、生徒の話す力・聞く力なども必要になります。こうした点については、どのようなノウハウがあるのでしょうか。

「まずテーマの設定から、生徒の発信のするものを拾い上げ、生かすようにしています。自身のフィールドで感じている問題意識が大事ですね。田中校長が常々、本校を「居甲斐（いがい）のある学校」にしたいと強調しているように、生徒が自身のフィールドについて意識を深めることが、自分の居場所を大切にすることにもつながります。また個々の生徒の意見は、徹底して褒めるようにしています。生徒同士でも同じです。それによって人の話を真摯に聞く力（＝傾聴力）も高まってきます」と、前出の理科の齋藤先生。

また、プレゼンの力を育てる工夫については、「班のなかでプレ・プレゼンの機会も設けて、表現のスキルを高める工夫もしています。自分たちが発表するとき、クラスの仲間の発表を聞くときの、切り替えのメリハリも大事ですね。初期のうちは、やはり面白いものが生徒の間ではウケますが、自分たちで問いを立



文化祭で行われる「ビブリオ・バトル」。来場者に「この本読んでみたい!」と思わせるプレゼンをした生徒が勝者となる、知的書評合戦です。

て、自ら調べて考える経験を積むうちに、『発表は面白いことがすべてではない』ということにも気づくようです」と齋藤先生は話してくれました。

ここまで紹介した例以外にも、栄東中の学校生活には、アクティブ・ラーニングの考え方やスタイルを生かした課外活動や行事が随所に設けられています。

教員が精選した100冊の本を中心に選んで読み、オリジナルの読書ノートを使って、その感動を他者に伝えるための紹介文や絵を書き、ビジュアルでアピールするという「栄東の読書100選」では、優秀な紹介をした生徒は「栄東ブックマイスター」として表彰されます。「感想文ではなく紹介文というところが、生徒も恥ずかしがらず積極的に取り組めるポイントかもしれません」と副校長の辻先生。

この延長のような形で、文化祭では「ビブリオ・バトル」という催しが行われ、自分が読んで面白かった本の紹介を3分間でプレゼンし、優勝者には「マスター・オブ・ザ・バトル」 という称号が付与されます。「これはかなり盛り上がり面白いですよ」と入試広報部次長の奥田克己先生。

「人間是宝」を建学の理念に掲げ、人間は誰もが素晴らしい資質を持った宝の原石であると考え、その原石を磨き上げ「宝」として育てることを使命としてき

た同校。また「今日学べ」を校訓に、1日を充実させることを全ての基本と考え、「今日のことは今日やり、勉強も仕事も明日に残さない」生活態度を身につけることを謳ってきた同校にとって、このアクティブ・ラーニングが育てる生徒自身のモチベーションと能動的・活動的な学習姿勢は、もともと理想としてきたところに結びつくものなのでしょう。

栄東の「21世紀型教育」ともいえる、このアクティブ・ラーニングの成果は、今後ますます目覚ましいものとなることでしょう。その進化が楽しみです。

## 今春の大学進学実績もさらに躍進し、2015年入試でも高い人気が予想される1月10日A日程、1月11日東大特待I入試。

こうしたアクティブ・ラーニングの授業・学習スタイルで身につけた「能動的な学びの力」と「自立した学習姿勢」が、一方では日本の大学入試への対応力を育むうえでもプラスになることは、同校のここ数年の大学入学実績の伸びが象徴しています。

中高一貫の第17期生が高校を卒業した今春2014年の大学入試でも、東大14名(うち現役7名)をはじめ国公立大136名、慶應義塾大56名(うち現役40名)、早稲田大139名(うち現役111名)をはじめ私立大907名、ほか医学部医学科41名など、目覚ましい成果をあげています。ただし、この実績はまだ中学の募集定員が現在より少なかった時期の卒業生のもの。東大クラスの入試レベルが高まり、一方では難関大クラスからも東大合格者が出るようになった現在までの伸び方を考えると、この先の進学実績はまだまだ高まりそうです。2021年からの「大学入試センター試験廃止」と「達成度テスト(仮称)導入」が実現する見通しとなったいま、将来の大学入試の変化に向けても、先のアクティブ・ラーニングで身につけた力が存分に発揮されるに違いありません。

DATA  
2

2014年大学合格状況・抜粋 卒業生308名(国公立は実数、私立は延べ人数)

国公立大学	医学部医学科	薬学部	私立大学				
東京大学	14	東京医科歯科大学	1	東北大学	1	早稲田大学	139
東北大学	8	筑波大学	1	千葉大学	1	慶應義塾大学	56
北海道大学	3	三重大学	1	慶應義塾大学	7	上智大学	18
大阪大学	1	富山大学	2	東京理科大学	4	東京理科大学	55
東京工業大学	1	福島県立医科大	2	北里大学	4	明治大学	69
一橋大学	1	防衛医科大学校	1	星薬科大学	10	青山学院大学	12
埼玉大学	18	杏林大学	3	明治薬科大学	6	立教大学	36
千葉大学	10	順天堂大学	2	東京薬科大学	2	中央大学	47
筑波大学	6	埼玉医科大学	7	武蔵野大学	1	法政大学	73
その他	74	その他	21	その他	16	学習院大学	19
計	136	計	41	計	52	日本大学	49